
 本会記事

4th International Conference on Powder Metallurgy in Asia 会議報告

京都で開催しました APMA2015 から早くも 2 年がたち、第 4 回アジア粉末冶金国際会議〔4th International Conference on Powder Metallurgy in Asia (APMA2017)〕が、4 月 9 日から 11 日の 3 日間、台湾新竹の Sheraton ホテルにおいて開催されました。

今回会議が開催された新竹は、台湾桃園国際空港から車で約 40 分のところにあり、向かう車窓にはとところどころに奈良の大仏のような座像や日本では見たことがない木綿木の赤い花が町の至るところで咲きみだれ、異国情緒を感じました。新竹の郊外には新竹科学工業団地があります。この工業団地は 6 つの特区内に 500 社超の会社が入っています。工業団地には、台湾ポーライトがあり、台湾を訪れたことを機会に、ポーライトの菊池会長にご案内を頂き、川崎会長夫妻とともに台湾工場を見せて頂きました。

今回の APMA2017 の会議は、Taiwan Powder Metallurgy Association (TPMA) の主催で開催されましたが、参加者は、全体で 469 名の報告があり、日本からも沢山の参加がありました。

会議は、4 月 9 日の参加登録に始まり、同夕刻の welcome reception には各国の招待者が招かれ、非常に和やかな会でスタートを切りました。10 日は、TPMA 朱会長の歓迎スピーチ、菊池 APMA 会長のご挨拶に引き続き、毎回 APMA の国際会議で行われている各国の粉末冶金の状況についての報告がなされました。休憩をはさんで 2 件の Plenary Lecture があり、Höganäs AB の Lars-Olov Pennander 氏と当協会元会長の九州大学 三浦秀士教授による「Development of High Performance Injection Molded Ti-6Al-4V Alloy Compacts for Aero-space Application」の講演がありました。翌日朝にも 2 件の Plenary Lecture があり、同 Plenary Lecture のアブストラクトはまだ APMA2017 の HP で公開されています。講演は、7 テーマの Symposium と「MIM」と「Powder」の Special Interest Program が設けられ、同時に国内会議である Cross-Strait PM Conference が開催されました。発表件数は、両会議全体で Oral 264 件、Poster 96 件、そのうち日本からの発表は、23 件ありました。大阪大学 近藤勝義教授と立命館大学 鮎山恵教授が招待講演をされ、熱心な質疑応答がなされました。展示会場も 2 つ設けられ、50 社ほどの展示があり、講演会場の外でも賑やかに談笑の様子が見うけられました。

最後の 11 日夜には Conference Banquet が催され、おいしい台湾料理が振舞われました。アトラクションでは男の子の澄みきったソプラノの独唱が、にぎわっていた会場を一瞬にして舞台に釘付けとし、歌が終わるや、会場は大喝采に包まれました。途中から参加者もテーブルを変えて、歓談の輪があちらこちらで広がり、最後には参加者が一円となりダンスに興じて、大盛り上がりの末お開きとなりました。

会期中には、APMA の理事会が開かれました。現在 5 か国 8 団体が加盟していますが、それに加えてタイの ThaiPMA の入会が承認されました。会議では、各団体の活動報告の後、2018 年中国北京で開催される World PM2018 ならびに 2019 年にインドで開催される APMA2019 の準備状況についてそれぞれ説明があり、各団体への協力要請がありました。

また、2010 年に APMA が設立されて以来、長年にわたり、菊池勇氏が会長を務められていますが、次期会長として、TPMA 会長 Chiu-Lung Chu 氏が選ばれ、来年交代されることが決まりました。菊池会長のご尽力に感謝申し上げます。

前述のとおり 2018 年は、9 月 16 日から 20 日の間、北京で WorldPM2018 が開催されますが、会員各位には是非ともご発表、ご参加を頂きたいと思っております。

(井上 羊子)

